

特 集

北海道中標津農業高等学校の取り組み

増田 昌宏

中標津農業高等学校 教諭

北海道標津郡中標津町計根別南2条西1丁目1番地

中標津農業高校が所在する中標津町計根別は、人口約1,500人、それに対する乳牛の飼養頭数は人口の約13倍にもものぼる19,000頭という、酪農を基幹産業とする、日本有数の酪農地帯にあります。しかし、生徒数は年々減少傾向にあり、今年度は、新入生21名を加えた75名で単位クラブ活動をおこなっています。その中で、「生産技術科」と「食品ビジネス科」に分かれ、75人だからできる地域に根ざした活動を推進しています。

それでは、本校でおこなっている活動を紹介します。

ヒマワリ栽培の実施



原油高による燃料代と購入飼料代によって経営が圧迫されている昨今、ヒマワリ栽培を通して、環境に配慮し、経済的で楽しい酪農業を推進しています。

昨年の活動では、ヒマワリ種子から油を搾り、その油からバイオディーゼル燃料を自給し、トラクターの運転に成功しました。さらに、液肥として散布される糞尿に含まれる硝酸性窒素によって汚染されたほ場をヒマワリ栽培に利用することで、景観保護を含めた環境保全にも力を入れています。

地域花いっぱい活動の実施

緑豊かな自然が残る中標津町のイメージを崩すこと



なく、環境に調和した形で私たちが町に花を咲かせる運動をおこなっています。個々の栽培技術の向上から安定供給のための栽培管理を中心に、一年中園芸温室を開放し、見学、販売、栽培相談を引き受けてきました。さらに、地域の幼稚園や小学校での寄せ植え講習会・合同花壇づくりもおこない、参加した園児・児童からは「家でもお花を育ててみたくなった。大きく育つのがとても楽しみです。」という声をもらいました。町内に花壇が増えたことはもちろんのこと、花々が園児・児童、私たちの心の中に豊かな感情を芽吹かせてくれています。

地域の和牛を利用したハンバーグ製造の実施

「食」を取り巻く社会問題により、生産者への信頼が揺らぎ、食に対する期待が高まっています。「食」の信頼を取り戻すべく地域の和牛を利用し、「安全・安心」を追求した和牛ハンバーグを開発しました。和牛から出る生食されにくいスネやネックを利用することで利益を生み、知床らうす深層水の濃縮塩水を利用することにより、食品の質を高めると同時に、地域特産品としての付加価値を高めることが出来ました。「安全・安心」をうたう上で最も基盤となる原料生産者の苦労やこだわりを知ることができ、さらなる商品化へ進んでいます。

そばプリン製造の実施

牛乳の廃棄や生産調整がおこなわれている現状を知り、牛乳消費の手助けになればと考えオリジナル製品の研究・開発をおこないました。さらに、中標津町が地場産品にしようと取り組んでいる蕎麦に着目し牛乳とのコラボレーションを考えた新感覚の「そばプリン」を開発しました。販売したところ大変好評で、すぐに完売してしまいました。また、計根別農協女性部の方と協力しておこなっているアイスクリームの詰め合わせによるお中元販売も、当初20組の予約販売でしたが昨年度は41組と倍の注文があり除々に成果を出しています。

計根別特産物開発の実施

中標津町の特産物である「牛乳」と「ジャガイモ」を使用した新製品開発としてシュークリームの製造をおこないました。おみやげとするには出来るだけ在庫を安定して確保する必要があります。しかし、一般的にシュークリームは生クリームを使用している生菓子であるため消費期限を短く設定しなければなりません。そこで、食中毒菌の増殖を抑制するためシュークリームの冷凍を試みました。食味試験を繰り返し、少しずつ商品化へ進んでいます。

計根別食育学校の実施

平成18年度から始まった計根別食育学校は、子供たちに農業を教えることで、食べ物大切さを学んでもらおう。そして私たちも、食育の大切さを再確認しようという思いで開講。専門分会の枠を越え全クラブ員が関わり、子供たちと共に食の大切さ、命の大切さ、農業の苦勞を再確認することが出来ました。昨年度から引き続き行っている活動として、命の学習をメインに、家畜がと殺されて食品になるまでの行程をわかりやすく紙芝居を使って説明、小学生が作ったジャガイモを、実際に販売してもらい、生産→加工→販売の一連のフードシステムを体験してもらいました。大人の



食育でも、地元計根別農協女性職員の方と行った食育活動では、収穫した野菜を使った料理を作り、「いろいろな料理に使いそう」「自分で作った野菜だから安心」など、とても嬉しくなる評価を頂きました。さらに、昨年度は「食育に新しい風を！」という試みから地元中標津手打ち蕎麦同好会の方から蕎麦打ち指導をしていただけることになり、蕎麦打ちの技術習得に向けて、月1回のそば打ち講習会を行いました。農高祭では、今後の食育学校に活かす予定の蕎麦打ち技術を披露しようと、実演販売を行いました。

北方四島との交流活動の実施

中標津町は、元島民の方も多く住んでおり、領土問題をとても身近に感じています。そのため、平成18年度から「北方四島とのビザなし交流」に参加しています。今年度も4日間国後島に滞在し交流を行いました。この交流を全クラブ員が北方四島について考えるキッカケとなるよう毎年研修報告を行っていました。

本校の地域連携した「食と環境」を学び・作り・伝える取り組みによって、人の輪・心の輪を着実に広げています。地元の各学校やJA、各種団体との教育効果・地場産業活性化への取り組みと合致し、各種活動実施後の様々なアンケートでは地域の方々から多くの前向きな意見を頂き、次への参考になっています。本校においても、地域との交流を数多くすることで、地域課題から目標を導く意欲と理解を深めることにつながっています。

このような活躍は多くのメディアに取り上げられました。報道のNHK釧路放送局さん、北海道文化放送局さん、を始め、新聞や広報は北海道新聞さん、釧路新聞さんなど12社92回以上掲載され、朝日新聞さんには私達が今年度行った様々な活動を認めていただき、全国247団体から選ばれる、「朝日のびのび教育賞」を受賞。東京朝日新聞社で行われた授賞式には本校執行部4名が参加し、スピーチとスライド発表をしてくれました。私達の活動が認められたことにより、大きな達成感を得るとともに、更なる活動推進の活力となっています。



ます。

今後の目標と展望として、日本有数の酪農地帯である中標津町計根別で、食育学校や地産地消による食品開発等、地域産業を活かした交流を推進することで、今後も地域との確かな連携を築き、自然と調和した美しい環境のまちづくりと環境調和型の酪農業への取り組みを発展させるために大いに発信していきます。さ

らに、地域に根ざした「食と環境」による取り組みを継続・発展させ、地域の交流人口を広げるとともに、牛乳・乳製品の安全・安心さらには酪農業への理解促進につなげていきたい。これからも、地域を元気にする活動を中標津農業高校から発信できるよう努力していきます。

